

第21回（2018年度）「俳句甲子園」審査委員長プロフィール



たかの むつお

高野 ムツオ 先生(小熊座主宰)

昭和22年宮城県生まれ。阿部みどり女の薫陶を受け、「海程」を経て、佐藤鬼房に師事する。平成14年、鬼房の死後「小熊座」を継承、主宰となる。人間風土の尊厳を重んじる。句集『蟲の王』『萬の翅』（読売文学賞、蛇笏賞）など。



にしむら かずこ

西村 和子 先生(知音代表)

昭和23年神奈川県生まれ。清崎敏郎に師事。句集『夏帽子』『かりそめならず』『心音』他。著書に『虚子の京都』など。『心音』で第46回俳人協会賞受賞。第3回桂信子賞受賞。



なかはら みちお

中原 道夫 先生(銀化主宰)

昭和26年新潟県生まれ。能村登四郎に師事。「銀化」創刊・主宰。句集に『蕩児』『顛頂』『アルデンテ』『銀化』『歴草』『不覚』など。俳人協会新人賞、俳人協会賞受賞。



まさき ゆうこ

正木 ゆう子 先生(紫薇同人)

昭和27年熊本県生まれ。能村登四郎に師事。句集に『水晶体』『悠』『静かな水』『夏至』、著書に『現代秀句』など。俳人協会評論賞、芸術選奨文部科学大臣賞受賞、句集『羽羽』で蛇笏賞。



ほしの たかし

星野 高士 先生(玉藻主宰)

昭和27年神奈川県生まれ。祖母・星野立子に師事。句集に『破魔矢』『谷戸』『無尽蔵』『顔』『残響』。著書に『星野立子』『俳句創作百科 美・色香』『俳句真髓』、共著に『星野立子俳句三六五日』。



おざわ みのる

小澤 實 先生(澤主宰)

昭和31年長野県生まれ。平成12年「澤」創刊・主宰。句集『砧』『立像』『瞬間』。著書に『万太郎の一句』『俳句のはじまる場所』など。第21回俳人協会新人賞、第57回読売文学賞詩歌俳句賞、第22回俳人協会評論賞受賞。



なつい

夏井 いつき 先生(いつき組組長)

昭和32年愛媛県生まれ。黒田杏子に師事。第8回俳壇賞受賞。第44回放送文化基金賞受賞。句集に『伊月集 龍』『伊月集 梟』。著書に『100年俳句計画』『雪の歳時記』『花の歳時記』『時鳥の歳時記』『寝る前に読む、一句、二句』『絶滅寸前季語辞典』『絶滅危急季語辞典』『俳句の授業ができる本』など。



きしもと なおき

岸本 尚毅 先生(天為、秀)

昭和36年岡山県生まれ。「天為」「秀」同人。赤尾兜子、波多野爽波に師事。著書に『高浜虚子俳句の力』(俳人協会評論賞)、『生き方としての俳句』。句集に『舜』(俳人協会新人賞)、『健啖』など。



せき えつし まんぼう

関 悦史 先生(翻車魚)

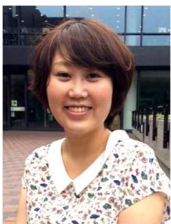
昭和44年茨城県生まれ。芝不器男俳句新人賞城戸朱理奨励賞。俳句界評論賞。句集『六十億本の回転する曲がつた棒』で田中裕明賞。『花咲く機械状独身者たちの活作り』。



ときた ともや

鶴田 智哉 先生(オルガン)

昭和44年千葉県生まれ。結社「魚座」「雲」その後退会。同人誌「オルガン」参加。俳句研究賞、俳人協会新人賞、田中裕明賞受賞。句集『こゑふたつ』(2005)、『凧と円柱』(2015)。



さかにし あつこ

阪西 敦子 先生(ホトトギス、円虹)

昭和52年神奈川県生まれ。「ホトトギス」同人「円虹」所属。日本伝統俳句協会賞新人賞受賞。アンソロジー『ホトトギスの俳人101』『俳コレ』『天の川銀河発電所』。



たかやなぎ かつひろ

高柳 克弘 先生(鷹編集長)

昭和55年静岡県生まれ。平成14年「鷹」入会、藤田湘子に師事。平成16年俳句研究賞。平成20年「凜然たる青春」で俳句協会評論新人賞。平成21年第1句集『未踏』で田中裕明賞。平成28年第二句集「寒林」刊行。平成29年度「NHK俳句」選者。「鷹」編集長。読売新聞『KODOMO俳句』選者。新著に評論集『どれがほんと？万太郎俳句の虚と実』



こうの さき

神野 紗希 先生(現代俳句協会青年部長)

昭和58年愛媛県生まれ。高校時代、俳句甲子園をきっかけに俳句を始める。第1回芝不器男俳句新人賞坪内稔典奨励賞受賞。句集『星の地図』『光まみれの蜂』、著書に『日めぐり子規・漱石』など。